

北陸農政局長賞

春木区（石川県中能登町）

～農家と非農家がともに農村と農業を守り未来に残す～

◆背景

本地区は能登半島の中央部にある中能登町の北西部に位置している。地域住民の交流拠点となる集会所の土地を所有するため、平成5年に法的権限を持つ地縁団体として自治法人「春木区」が誕生した。江戸時代に築かれ農業水源として利用されてきたため池を地域活性化の核として活用し、農家と非農家とで協力してむらづくりに取り組んできた。「春木区」を核として地域内で多くの活動組織が生まれ、連携して活動を行っている。



◆取組概要

① 農業生産面

農地とため池を守り次世代に繋いでいくため、地域の営農ビジョンをもとに、環境に優しい化学肥料低減の環境保全型農業に長年取り組んでおり、石川県のトキ放鳥推進モデル地区にも選定されている。農地保全のための江堀作業やため池保全のための堤防の草刈りを、農家・非農家に関わらず地区住民の共同活動として実施することで、地域ぐるみで農地を保全する意識の醸成及び活動を通じた地域コミュニティの強化につなげている。また、県のボランティアとともにトキの餌生物の生息状況を把握する田の生き物調査を定期的の実施するなど、地区外とも連携して環境整備に取り組んでいる。

② 生活・環境整備面

当法人は、祭りなどのイベントを活発に行うことで地域内のつながりを強化するほか、令和4年には地区外のインターンシップの学生と協力して春木地区の情報誌「春木のしおり」を作成し、令和5年には大学生の街歩きマップ作成の取組を受け入れてワークショップ等の活動を支援するなど、地区外住民とも積極的に交流を行っている。こうした活動を通じて、地区外の新たな視点による地域資源の再認識を行い、むらづくりに活かしている。また、役場とも連携して、移住・定住促進座談会を計10回開催し、ワークショップや現地確認を実施するなど、移住・定住の促進にも力を入れて取り組んでいる。

◆写真で見る団体の取組



むらづくりに関する話し合い



江堀作業



ため池の堤防の草刈り



トキ放鳥推進モデル地区に選定



大学のインターンシップ受入れ



移住促進のワークショップ